

# 会派視察・研修報告書

会派名 自民クラブ

代表者名 嶋内 九一

1 日 に ち	令和 5年 7月 5日 ( 水 )
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	NPO グリーンバレー 所在地 神山町神領字中津 132 番地神山町農村環境改善センター内
3 参 加 者	柴田雅也、若尾敏之、吉田企貴、城處裕二、玉置真一、加藤智章
4 調査・研修の テーマ	サテライトオフィスの取組について
5 主な内容	古民家を活用した ICT 企業のサテライトオフィス誘致等による 若年移住・雇用の増加への取組について
6 所感、提言事項、課 題等	<b>【柴田雅也】</b> 神山らしさとは何か？を問いながら、ハードをどうするかではなく、ソフトをどう展開するか？は重要であると認識した。 その観点にて文化、移住、環境、働き方、教育、公共と言う視点を持って、多様な価値観とおおらかさをもって、国内外のアーティストを呼び込み、人が人を呼ぶことに繋がり、多様な人材が増えていく神山町は大いに参考になるものである。 美濃焼、陶磁器意匠研究所というかけがえない資源があり、常に若いクリエイターを輩出する環境を持っている多治見市にとっても参考になると思う。そのような中でやはり、変化を起こす意思を待つ住民の存在が重要であり、ハードよりソフトを重視して、人と人とのつながりを大切にしながら、そこに住む住民が自ら当事者意識を持つことは重要である。その上で当事者（そこに住む住民等）の意思の醸成とともに行政との連携の機会ができることが持続性のあるまちづくりにおいても重要なことであると思った。

6 所感、提言事項、課題等

【若尾敏之】

日本の普通の町と状況は特に変わらない人口4846人の小さな町で、なぜ新たな展開が次々と起こるのか？

ミッションは「日本の田舎を素敵に変える！」

創造的過疎・・・人口減少の現状を受け入れ人口の中身を変える若者や創造的な人材の誘致によって人口構成の健全化を図るとともに、多様な働き方が可能なビジネスの場としての価値を高めることにより一次産業のみに頼らない持続可能な地域を目指す。過疎地における課題は、雇用がない・仕事がない・若者に魅力ある仕事の欠如である。

NPOグリーンバレーの事業は1991年の「アリス人形の里帰り」から始まった。特に2015年の神山町創生戦略の策定は「まちを将来世代につなぐプロジェクト」として①子育て世代向け集合住宅プロジェクト②県立校の学校再編と県外生の受入れなどを実践してきた。結果2019年に城西高校神山校の学科再編が実現した。このような考えは、自分の世代で結果を見ようとしない長期的な発想にあり、このことが良い結果につながっていると確信した。

【吉田企貴】

山間部にもかかわらず、多数のサテライトオフィスが立地していることで有名な当地を視察できたことは貴重であった。ここでも、尾道市と同じくアート界隈の人材が最初に集積していたとのこと。利便性や物質的な豊かさを求める場合、大都市に対して地方は優位性を確保することは多くの場合困難である。その点、こうした近代的な豊かさとは違った価値を求める層に訴求していくことは、地方が大都市に対して比較優位を獲得していく上で重要な観点であることは間違いないだろう。

【城處裕二】

神山を通して考える『創造的過疎』。過疎化の現状を受け入れながら、数ではなく過疎の中身を改善する。

まちづくりのフェイズの鍵「国際交流」「アート」「ライフスタイル」「知識・情報・技術」「神山町地方創生戦略」

「神山まるごと高専」をしっかりと押さえながら、プロジェクトを展開されている。『わけのわからない投資をきちっとできとったから、結果的に今の状況がある。』との言葉にその先見性と信念を感じました。

**【玉置真一】**

地域再生にあたっては地域住民と共に取り組まれている。

再生された建物をサテライトオフィスとしての利用の他、地域住民は もちろん様々な集いの場であり、人の交流によりにぎわい増進を感じた。

また、海外に向けて発信し日本、そして魅力ある神山ブランドに多くの外国人アーティストが訪れ、そして活動し、そしてまた人々が集まる相乗効果が高まっている。

今後さらに地域活性、観光に向け取り組まれるとの事、地域再生に関する成功例である。

**【加藤智章】**

神山プロジェクトは、地域の再生と文化振興に大きな成果を上げていると感じました。再生された建物のサテライトオフィスとしての利用は、多くの人々を引き寄せ、地域の活気を取り戻している印象を受けました。地域住民との協力によって、プロジェクトは地域に根付いた取組として成り立っている。

神山プロジェクトはまだ進行中であり、今後の展望も重要である。地域の観光振興や地域経済の活性化をより一層推進するために、新たなアイデアやイノベーションが求められるだろう。

7 写 真 等  
 ※視察の場合は必須、研  
 修の場合は任意



文化	神山アーティスト・イン・レジデンス ほんのひろば（図書館のない町の私設図書室）
移住	移住交流支援事業 空き家の不要物の再利用「モノストック」
環境	里山保全の森づくり（大栗山・コスモ石油） アドプト・プログラム（道路清掃）
働き方	神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス
教育	神山まると高専設立準備事業
公共	農村環境改善センターの指定管理



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。